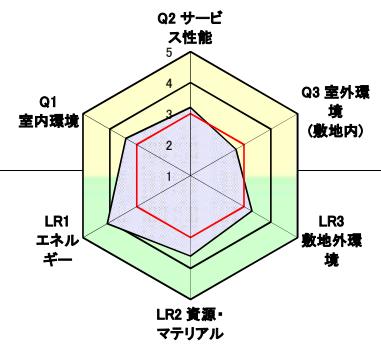


■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)相模大野四丁目計画	階数	地上41F 地下3F
建設地	神奈川県相模原市南区相模大野四丁目4009-45	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	2,760 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	物販店、集合住宅、	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2025年5月 予定	評価の実施日	2022年1月25日
敷地面積	10,186 m <sup>2</sup>	作成者	三井住友建設株式会社横浜支店一級建築士事務所
建築面積	3,389 m <sup>2</sup>	確認日	2022年1月25日
延床面積	69,058 m <sup>2</sup>	確認者	三井住友建設株式会社横浜支店一級建築士事務所

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)	
<b>BEE = 1.7</b> 					
<b>Q 環境品質</b>		<b>標準計算</b>		<b>Q のスコア = 3.1</b>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		Q1 室内環境		Q2 サービス性能		Q3 室外環境 (敷地内)	
Q 環境品質	Q1のスコア = 3.4	音環境	3.2	機能性	3.1	生物環境	2.0
		温熱環境	3.1	耐用性	3.2	まちなみ	3.0
		光・視環境	3.4	対応性	3.4	地域性・	3.0
		空気質環境	4.0				
LR 環境負荷低減性	LR1 エネルギー	建物外皮の	3.9	LR2 資源・マテリアル	3.0	LR3 敷地外環境	3.9
		自然エネ	3.0		非再生材料の	3.8	
		設備システ	4.9		汚染物質	3.6	
		効率的	3.0				

3 設計上の配慮事項	
総合	先進的な環境配慮への取組みと建物1.2階に店舗を設置により、地域貢献が可能な施設となるよう計画。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能
・日本住宅性能表示基準 5.1断熱等性能等級4 を取得。 ・ほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用、ホルムアルデヒド以外のVOCについても放散量の少ない材料を全面的に使用する計画。	・日本住宅性能表示基準 3-1劣化対策等級3 を取得。 ・住戸階高を3300mm以上とし、ゆとりある空間を演出。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル
・住戸の熱源設備はエコジョーズ、エナファームを採用。	・リサイクル促進対策として、住戸は二重床・二重天井とし、配管や配線が躯体や仕上材と錯綜しない計画。 ・仕上げは、躯体+軽鉄+仕上材とし、分別が容易にできる計画。
Q3 室外環境 (敷地内)	LR3 敷地外環境
Q3のスコア = 3.7	LR3のスコア = 3.3
・「景観条例」相模大野駅周辺環境デザイン計画を遵守し、街並みに調和する建物外観計画。	・住宅用の自転車置場は1,187台とバイク置場50台を確保。 ・住宅用の駐車場は207台と敷地内に管理用・荷捌き用車両スペースを確保。入口から駐車場まで幅6mの車路を設け、待機・車寄せスペースも確保。安全対策のため出入口に出庫灯、カーフミラーを設置。 ・来客用駐車場を5台確保。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用・改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される